



ピッポ新聞

2006
6
No.210

年間購読料 (送料込み) 1500円

編集・発行 伊藤俊男

子どもの本専門店

ピッポ

〒424-0886 静岡市清水区草薙1-6-3

TEL & FAX 0543-45-5460

URL <http://www.pippo.co.jp>

E-mail itoh@pippo.co.jp

福音館書店の回答

ピッポ

伊藤俊男様

いつも格別の御引き立てを賜りありがとうございます。

さて、ピッポ新聞でお尋ねの件ですが、3月号では独禁法や表現の自由のという法的な問題も取り上げ、それに違反しているかのような印象を与えるご指摘をいただきましたが、小社は法律に抵触するような出版活動は一切行っておりません。また、5月号でいわれる道義的責任を問われるような行為も行っておりません。

「ご指摘の商品は、現在販売されておりませんが、過去に時期を限定してブッククラブ形式で販売したことがございます。しかし、同じ商品を同一の時期に、違う価額(二重価格)で販売したことはございません。ご指摘の商品が販売先を限定し、価額が引き下げられて販売されたことを問題にしておられますが、一定の条件のもとに小社が判断したことであり、出版社の裁量範囲のことと認識しております。

法律の問題は伊藤さんから公正取引委員会に見解を聞いていただきたいと思います。

道義的責任と仰ることも伊藤さんの誤解の延長上のことと考えます。

以前にも同じご質問をいただき、口頭でお話しさせていただきましたましたが、ご理解いただけず残

念に思っております。

重ねてご理解を賜りたくお願い申し上げます。

2006年5月30日

福音館書店

常務取締役 小倉 昇

福音館へ質問状を出して3ヶ月

と言つのが、

福音館の小倉さんから、5月30日に、突然、ファクシミリで届きました。後の文章は、何故、小倉さんから回答が届いたのか理由が附記されていきましたので、併せて掲載いたしました。

なお、これを初めてご覧いただく方は、多くの福音館に対する質問内容が分からないと、福音館のこの回答の意味が理解できないかも知れません。ピッポのホームページからピッポ新聞のバックナンバーをご覧ください。

URL <http://www.pippo.co.jp>

トップ頁が出たら、左側の「Web版ピッポ新聞」をクリックしてください。その2006年3月号と5月号に公開質問が掲載してあります。

福音館書店 小倉 昇

要件： お尋ねの件

いつもたいへんお世話になりありがとうございます

ます。

昨年「こどものとも50周年セミナー」でお会いしました小倉でございます。たいへんご無沙汰いたしております。

私は、現在営業を離れておりますが、伊藤さんとお会いしたところのあるものが、お話しした方がよいのではないかと思ひ、私が窓口とさせていただきます。

ピッポ新聞で田中宛にお尋ねいただきありがとうございます件、別紙を書きましたのでFAXさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

(回答書の記事はファクシミリで横組みでしたが、編集の都合上縦組みに直したことをお断りいたします)

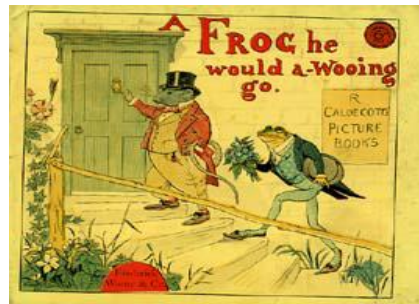
そうだ！今日はカエルの絵本を読もう！

先日(5月下旬)店に立ち寄ったお客さんが、それは嬉しそうに「きのう、今年初めてホテルが飛んでるのを見たよ！」と、報告してくれた。その人は、僕が借りている畑の側を流れる小川(と言っても吉田川という名のコンクリート3面張り。でも、雑魚は結構泳いでいるし、クレソンなども生えていて、やがて巴川に合流する)の1キ口ほど下流に住んでいるという。この川

沿いには毎年ホテルがあるので、見を訪れる人も結構いるのだ。

ぼくはこの川沿いを週一回ジョギングをしているが、このところ、走っていて目につくのが田植えが終わった川の左右の田圃である。

しかし、その田からは一向にカエルの鳴



100年前の絵本(イギリス)

く声が聞こえないのだ。ぼくが走っているせいかもしれないと思ひ、立ち止まって耳を傾けるのだが、やはり聞こえてこない。アマガエルは減少しているのだろうか? トノサ

マガエルも田圃や池から姿を消したのだろうか? 考えてみれば、このところ、カエルを目にするのがめづばう少なくなつたような気がするのだが...

ぼくが子どもの頃はホテルの季節は、カエルの季節でもあった。薄暗くなるとホテルが淡い光を点滅させ飛んでいる姿は、珍しいものでなく極ありふれた風景であった。田圃に水が張られと、その水路を伝わって、小さな生き物たちも田圃に戻ってくるのである。

赤くて大きな鉄のザリガニ(農家の人は田に穴を空けるので知らわれものであつ

た)や、無数と思える頭でつかちのオタマジャクシが不器用に泳いでいたし、小ブナやドジョウなどの雑魚たちも田圃に入り込んできた。これらの生き物たちはぼくら子どもの格好の獲物であった。夢中になつて追いかけて獲つたものだ。

あなたはカエルを釣つたことがあるだろうか? カヤツリクサ(?) のような茎の細長い先に穂を付けた草の穂先をちよつとだけ残して、それをカエルの目の前でいかにも虫のように動かしてやると、カエルがこれに飛びつくのである。



ポターのカエルの絵本

おじさんは子どもの頃こんな事を来る日も来る日もやっていったんだ。

初夏の田圃は、生き物たちでにぎやかであった。

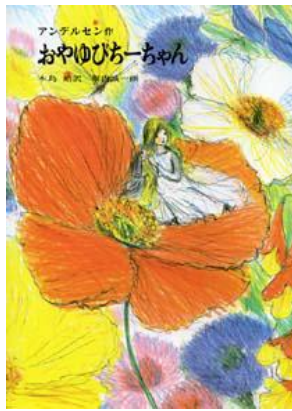
そうだ、今日はカエルの絵本を読もう!

カエルの絵本は意外や欧米に多い。古いところでは、まずはコールドコットの絵本から。『A Frog he would a-woeing go』これは古くから伝わるバラッドを1883年にコールドコットが絵本にした

もの。カエルくんがハツカネズミのお嬢さんに恋をするのだが、何とも悲しい



グリムの「カエルの王さま」



アンデルセンのカエル

デコットの絵本を生み出したエドモンド・エヴァンズの工房で小口木版で印刷されたものである。このペーパーバックのトイブックと呼ばれた絵本はとてもとても希少で、現品も既に百年を経ている古書。背の部分が2センチほどササクレがあり、所どころにほんのわずかにシミがあるが、カラー刷りの頁の絵はとても美しい。9450円(消費税込み)
このコールドコットの絵本に影響を受けたと言われるビアトリクス・ポターも「ジェレミー・フィシャーどんのおはなし」(いしいももこ・訳 735円 福音館書店)

結末を迎えるので、あつたが、このポターの絵本も、内容は一歩間違えば悲劇的結末が待っていたのだが、こちらの主人公カエルのフィシャーどんは、かろうじて難を逃れて家に帰り付くのである。小動物たちの本当の姿を描き出す中で、擬人化した個性豊かな主人公がユーモラスに描かれていく。ポターの父の友だちの釣り人をモデルにしたという。

さてカエルは昔話にも登場する。グリム童話の「かえるの王さま」または忠臣八雲リツヒ(ビネット・シュレーダー・絵 矢川澄子・訳 1890円 岩波書店)のカエルはグロテスクなカエルとして登場して行く。お姫さまに毛嫌いされ、最後に壁に投げつけられることによって元の姿の王子さま戻りめでたく結婚するのである。やはり西洋でもカエルは醜いものとしてえがかれることもあるようだ。



せかいのはてってどこですか?

が息子のために最初にちいちゃんをさらってくるが、このアンデルセンの物語ではカ

「おやゆびちゃん」(アンデルセン・作 堀内誠一・絵 木島始・訳 1575円 福音館書店)ではガマエルの母さん

エルは主人公ではなく脇役の一人(?)である。

さて、昔話などの中ではカエルはグロテスクに描かれるようだが、現代の話の中ではどのように登場しているかを次に紹介しよう。

『せかいのはてってどこですか?』(アルビン・トゥレットセルト・作 ロジャー・ヂュボアザン・絵 三木卓・訳 1470円 児童館出版)これはことわざ「井の中の蛙、大海を知らず」地でいくカエルである。自分の住んでいる井戸の中が世界のすべてだと思っていたカエルが井戸から出て広い世界を知り、自分の仲間に出会う話。



ゆかいな かえる

『ジュリエット・キープス・作 いしいももこ・訳 945円 福音館書店』は軽快でリズム感のある絵本。たまごのとき、仲間はずれと食べられてしまつたが、4匹だけが無事カエルに育ち、身の危険を上手に避け無事冬眠するまでを流れるように描いた楽しい絵本。

たのしいといえば、『ふたりはともだち』(アーノルド・ローベル・作 三木卓・訳 897円 文化出版局)は、がまくんとかえるくんという性格のちがった二匹のカエルやりの妙に味がある。どちらかというとせつかなかえるくんにたいして、ゆっくりながまくんの話のずれがユーモア

として楽しめるのである。このシリーズは4編ある。

と、ここまででは翻訳の絵本を紹介してきたが、日本のカエルの絵本を見てみよう。

『ずら〜り カエル ならべてみると...』



(松橋利光)

写真 高岡昌

江・文 15

75円 アリ

ス館)

これは種のカエルを紹介した本だ。夏、

山の川で釣りをしていると、それは軽やかな「コロコロコロ...」カジガカエルの鳴き声である。僕はこの声を何度も何度も聞いてきたのに、その姿をこれまで一度としてみたことが無い。この本でその姿と初めて対面したが、その声ほどには美しくはなかった。

『アマガエルとくらす』(たくさんの方し

ぎ傑作集 山

内祥子・文

片山健・絵

1365円

福音館書店)

は偶然だいで

ころで見つけ

たアマガエルを、その後13年以上も飼い



続けた主婦のアマガエル観察記録。観察記録とすましてしまつにはあまりにももったいない。これはアマガエルを見守りながら素直な目で見た愛情記録である。

『あまがえるりょこうしゃ トンボいけたんけん』(松岡



んけん) (松岡

たつひで・作

1260円 福

音館書店) は陸

の小さな生き物

がアマガエルの

案内でトンボい

けに水の生き物

の暮らしをツアー

旅行で見学に出

かけるという物

語。しかし描か

れている生き物たちは科学的にであり、知識絵本もある。さすがに自然のイラストレーターである松岡さんの作品。

次はことばあそびを楽しもう

『いまはむかし さか

えるかえるのものがた

り』(まつおかきよう

こ・作 馬場のぼる・

絵 1050円 こぐ

ま社)

「ふんぞりかえるは

とのさまがえる」「ひ



かえるかえるは「つかえるかえる」...と、これは松岡享子さんのカエルのことばあそびと漫画家馬場のぼるさんのユーモア溢れる楽しい絵本。一度聞くと誰でも口ずさみたくなってしまう。

さて、みなさん！カエルの絵本散歩はいかがかな？カエルたちの鳴き声はきこえてきただろっかな？最後に1冊

『かえるの平家ものがたり』(日野十成・

文 斎藤隆夫・

絵 1575

円 福音館書

店)

げんじ池のヒキガエルのじいさんが、子どもたちのカエルに、琵琶を片手に千年も前から伝わ



る昔話を語りだした。平家物語に材を取り、可愛いカジガエルの牛若丸が智恵と機転で平家猫を池のそこに沈めたはなし。

まだカエル絵本はありますが、「丁度時間となりました。今回はここまでで！」続きはまたの機会ということで...